

スナメリ *Neophocaena phocaenoides*

文・写真 石川 恵 (MEGUMIOCEAN)

海で暮らすほ乳類と言えば…？世界中の海にたくさんの仲間がいます。あなたはどんな海で暮らすほ乳類を思い浮かべましたか？

水族館のショーで人気の鰭足類 アシカやアザラシ。人魚のモデルとなったと言われる海牛類 ジュゴンやマナティー。ダイナミックなジャンプを見せてくれる鯨類 イルカやクジラ。彼らは水の中にいながら、肺で呼吸し、赤ちゃんは母乳を飲んで成長します。

遠くの海にしかいないと思っていらっしゃるかもしれませんが、海に囲まれている日本は、案外あちこちで海のほ乳類に出会うことができるラッキーな場所です。

今回は日本沿岸に生息していて最も人間の生活の近くで生息しているイルカの仲間「スナメリ」をご紹介します。

スナメリは体長1.5～1.8m程度の小型のイルカです。一般的なイルカとは異なり、背中にヒレがないかわりに黒い小さな粒粒がならんだ隆起があります。また、口も突き出しておらず、全体的になめらかな流線形の体をしています。体色も灰色一色で目立った模様はありません。そして、うなずくように首を曲げることができ、海中でクルクルと小回りの利いた泳ぎができます。

国内では限られた海域に生息しており、異なった遺伝子配列を持つ5つのグループに分かれています。①仙台湾～東京湾、②伊勢湾・三

河湾、③瀬戸内海、④有明海・橘湾、⑤大村湾。関西では大阪湾や播磨灘周辺に生息していることが確認されています。

私は長崎空港に着陸する直前の大村湾と熊本と長崎を結ぶフェリー、大阪湾のスナメリ調査活動でスナメリに遭遇したことがあります。ですが、絶滅が危ぶまれる生物として指定されている地域もあり、海上に出たからと言って必ず遭遇できるとは限りません。

近年、大阪湾では関西国際空港周辺やその南側の海域での目撃を耳にするようになってきました。春には赤ちゃんを連れて親子のスナメリの姿も目撃されています。大阪湾はスナメリにとって何か良い条件を持ち合わせているのかもしれませんがし他に棲む場所がなくてその場所を選んでいるのかもしれませんが、それはスナメリに聞かないとわかりません。

生き物たちが暮らし続けるためには、餌となる生物・のびのびと暮らせる場所・地球の循環に沿った環境があることが必要です。海を汚さないこと、そして、海につながっている川・街・農地・山…のつながりを整えていくこと、そして、私たち人間も地球のつながりの中で生活していることを自覚することがスナメリたちの生息を左右するといっても言い過ぎではないでしょう。



スナメリ(マリンワールド海の中道)



海上を泳ぐスナメリ(有明海フェリーより)

夢洲から風を!

文 加賀 まゆみ(夢洲生きもの調査グループ)
写真 同調査グループ

私たちは、土木工事の進む夢洲にいまどのくらい自然が残されているのか、環境5団体(注)への説明会で、大阪港湾局に立ち入り調査を要望していたが、それが月一回のペースで叶い、港湾局職員とともに、夢洲に入場している。そこでは、多くの種類のシギ・チドリが集い、セイタカシギは営巣まで見せてくれ、ともに活動している日本野鳥の会大阪支部長の丁寧な説明に、港湾局職員にも「初めて知る夢洲の生きものの豊かさ」の感動が広がっている。

(注：環境5団体=WWFジャパン・日本自然保護協会・日本野鳥の会・日本野鳥の会大阪支部と大阪自然環境保全協会)

先日、夏原会長が中崎町のサイエンスカフェに呼ばれ、路上で通行人相手に夢洲の生物多様性について語った。いままであまり自然保護に関心のなかった層にも、興味を持ってもらう素晴らしいチャンスとなった(写真-1)。

また、この3年間で撮り溜めた夢洲の生きものの写真をなんとか発表したいと思い、公共施設に働きかけている。下見に訪れた東淀川図書館で、急遽今の時期に大阪湾で繁殖しているコアジサシをテーマに、写真展を開催させてもらうことになった(写真-2)。急いで展示物をつくったので、ほぼ手書き手作りであるが、コアジサシのデコイと一昨年紙粘土で

作った卵の模型で立体展示のクイズを作り、楽しめる展示になったと図書館もとても喜んでくださっている。

私たちが、ホットスポットAランクであった夢洲の自然をなんとか残してほしいと活動し始めたときは、同じ自然関係の団体も「壊されることに決まっている夢洲のことをいまさら…」と後ろ向きだったが、今、だれもが知っている環境団体の協力を得て、環境5団体として行政に働きかけるようになったことで、大きく風向きが変わりつつあるのを感じている。

次は、一般の方へのイメージ戦略だ！それで市民の目に触れるような商店街や図書館など公共の施設で活動を広げていこうと思っている。ささやかな、ほんとに小さな蝶の羽ばたきかもしれない。でも、これが将来の夢洲の自然再興へ、そして大阪の自然保護へ、それから、世界目標である「昆明・モントリオール生物多様性枠組」へとつながっていきますように、と祈りながら。

9月にはきしわだ自然資料館で、写真展と、夏原会長のミュージアムトークも予定している。

今後各地で、いろいろな施設やグループとコラボして、夢洲周辺の自然がいかに再興の可能性に満ちているか、一緒に考えていきたいと思っていますので、ご協力よろしくお願ひいたします。



写真-1 中崎町商店街で話す夏原会長(6月18日)



写真-2 東淀川図書館での展示(7月末までの予定)